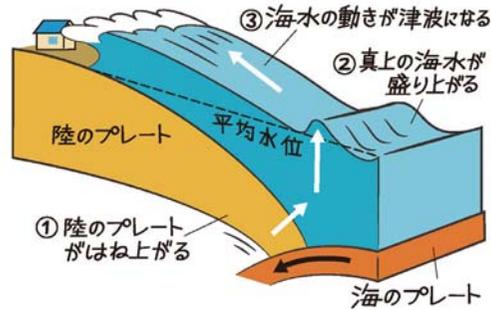


津波・高潮の基礎知識

津波

プレートの境界で地震が発生して海底が隆起すると、その上にある大量の海水も盛り上がり、そのまま周囲に移動していきます。強風によって生じる波やうねり（波浪）と違い、海底から海面までの海水が一斉に動いて沿岸に押し寄せるのが津波です。



📣ポイント! 津波に関する警報・注意報

大津波警報（特別警報）、津波警報または津波注意報は、その海域における最大級の津波を想定して発表します。マグニチュード8を超える巨大地震などの場合には、最初の津波警報で予想される津波の高さを数値で示さず、「巨大」「高い」という言葉で発表して避難を促すことに重点を置きます。津波の予想高は第2報以後で公表します。

警報・注意報の分類		予想される津波の高さ		
		高さの区分	数値での発表 (発表基準)	巨大地震の 場合の表現
特別警報	大津波	10 m < 高さ	10 m 超	巨大
		5 m < 高さ ≤ 10 m	10 m	
		3 m < 高さ ≤ 5 m	5 m	
警報	津波	1 m < 高さ ≤ 3 m	3 m	高い
津波注意報		20 cm ≤ 高さ ≤ 1 m	1 m	(なし)

(気象庁資料より)

🌸 福岡県では 津波

福岡県沿岸では、近年大きな津波は観測されていません。寛政4年(1792年)の雲仙火山の活動では、壊れた山の土砂が有明海に流れ込んで波高数十mの津波が発生し、有明海沿岸に被害をもたらしました。福岡県にも数mの津波が及んだと言われています。(出典：「福岡県地域防災計画(地震・津波対策編)」)

高潮

高潮は海面が上昇する現象で、台風や猛烈に発達した低気圧が原因で発生します。

高潮発生の3要因

① 気圧低下による海面の吸い上げ

台風や低気圧の中心付近では、周辺よりも気圧が低いために海面が吸い上げられて上昇します。

② 風による岸への吹き寄せ

台風による強い風が海岸に向かって吹くと、海水が吹き寄せられて、海岸付近の海面が異常に上昇します。

③ 波浪による海面上昇

大きな波が絶え間なく押し寄せると、岸に近い場所に多量の海水がたまって海面が上昇します。波が大きいほど、海面の上昇も大きくなります。



* 海岸近くのゼロメートル地帯は高潮による浸水の被害に要注意です。

高潮が発生しやすい場所

● 風上側に開けたところ

台風の強い風が吹き込む湾では、吹き寄せにより、海面が高くなります。

● 湾の奥まったところ

奥に行くほど狭くなっている湾では、持ち上げられた海水の逃げ場がなくなり、海面が一層高くなります。

● 遠浅の湾

有明海や瀬戸内海など浅い海は、強い風の吹き寄せにより、海面が高くなります。



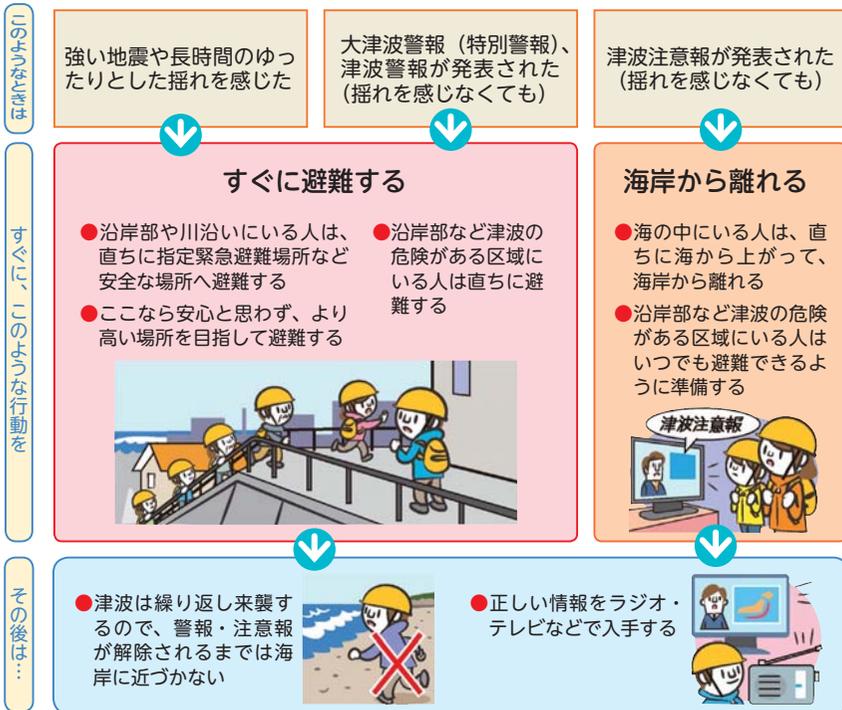
🌸 福岡県では 高潮

県内では、有明海に南よりの風、周防灘に東よりの風、玄界灘に西から北風がそれぞれ吹くときは、高潮の発生のおそれがあります。平成11年(1999年)、熊本県北部に上陸後、福岡県を通過して周防灘へ進んだ台風第18号では、周防灘沿岸で大きな高潮災害が発生しました。(出典：「福岡県地域防災計画(基本編・風水害対策編)」)

津波発生時の対応

津波から命を守るには、津波が届かない高い場所へ避難するしかありません。自分の命は自分が守るということを強く意識してください。

命を守る津波対応チャート



メモポイント! 洪水・高潮、津波・津波避難に関する標識を覚えよう!

津波注意 津波避難場所 津波避難ビル 津波・高潮 洪水・内水氾濫



台風・暴風の基礎知識

熱帯の海上で発生する「熱帯低気圧」のうち、北西太平洋や南シナ海にあって最大風速が毎秒約 17メートル以上に発達したものを「台風」と呼んでいます。台風は年間平均して約 26 個発生し、そのうち約 11 個が日本に接近、3 個程度が日本に上陸します。



風の強さと被害

平均風速 (m/秒)	風の強さ (予報用語)	人への影響	屋外・樹木の様子	走行中の車	建造物	おおよその瞬間風速 (m/秒)
10以上~15未満	やや強い	風に向かって歩けにくくなる。傘がさせない。	樹木全体が揺れ始める。電線が揺れ始める。	道路の吹き流しの角度が水平になり、高速運転中では横風に流される感覚を受ける。	電線が揺れ始める。	20
15以上~20未満	強い風	風に向かって歩けなくなり、転倒する人も出る。高所での作業はきわめて危険。	電線が鳴り始める。看板やトタン板が外れ始める。	高速運転中では、横風に流される感覚が大きくなる。	屋根瓦・屋根葺材がはがれるものがある。雨戸やシャッターが揺れる。	30
20以上~25未満	非常に強い風	何かにつかまっていなくて立ってられない。飛来物によって負傷するおそれがある。	細い木の幹が折れたり、根の張っていない木が倒れ始める。看板が落下・飛散する。道路標識が傾く。	通常ので速度で運転するのが困難になる。	屋根瓦・屋根葺材が飛散するものがある。固定されていないプレハブ小屋が移動、転倒する。ビニールハウスのフィルムが広範囲に破れる。	40
25以上~30未満						
30以上~35未満	猛烈な風	屋外での行動はきわめて危険。	多くの樹木が倒れる。電柱や街灯で倒れるものがある。ブロック壁で倒壊するものがある。	走行中のトラックが横転する。	固定の不十分な金属屋根の葺材がめくれる。養生の不十分な仮設足場が崩落する。	50
35以上~40未満						
40以上						

※平均風速は 10 分間の平均、瞬間風速は 3 秒間の平均のこと。

(気象庁資料より)

福岡県では 台風

昭和 20 年 (1945 年) 9 月、鹿児島県枕崎市付近に上陸して九州を北上した「枕崎台風」では、県内でも死者・行方不明者 87 人に達しました。また、平成 3 年 (1991 年) 9 月の台風第 17 号・第 19 号では、死者・行方不明者 14 人、負傷者 891 人、家屋の全半壊 4,448 棟などの被害を記録しています。(出典:「福岡県地域防災計画(基本編・風水害対策編)」)